

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスク上大岡保育園
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒233-0002 横浜市港南区上大岡西3-3-1コーラルハイムⅠ
設立年月日	平成18年4月1日
評価実施期間	平成25年6月 ～平成25年9月
公表年月	平成25年10月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者事業部
評価項目	横浜市版

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）

【施設の特色】

アスク上大岡保育園は京浜急行線、横浜市地下鉄の上大岡駅より徒歩8分、定員56人の中規模園である。園は株式会社 日本保育サービスの傘下で平成18年に開設し、保護者の送迎、通勤に便利な場所に立地している。

園庭は広くはないが、プランターを利用して季節の草花や野菜などを園児、職員一緒に栽培し、収穫した野菜は、毎週クラス毎に行われるクッキング保育の食材としても活用している。

近隣には、多くの自然の豊富な公園があり、子どもたちの発達に合わせて、全力で駆けずり回れるグラウンドや遊具などを、職員は選択しながら利用している。

園目標の「元気に育て、心と体」を基に、子どもがわかるように「あいさつをしましょう」「よいことかわるいことかかんがえましょう」「げんきにあそびましょう」を職員全員で打ち出し、保育を進めている。

【特に優れていると思われる点】

1. ワンフロア保育室の工夫による異年齢保育の充実

年齢別に仕切られた各部屋を遊びコーナーに見立ててセットし、子どもたちは自由時間には、自分の好きなコーナーに足を運び、異年齢で楽しそうに会話しながら遊んでいる。運動会の4,5歳児合同の組体操練習では、全ての仕切りを壁に押しやり、大フロアを出現させ、お兄ちゃん、お姉ちゃんをまねしたくてうずうずしている3歳児も自由参加で、年長児や先生のまねをしながら演技に加わっている。近くにいる年長児も自分たちの演技の合間に、ちょっと3歳児を指導してりして、充実した異年齢保育時間が実現している。

2. 保育の専門家として、行政と協力した地域への貢献

港南区のこども家庭支援課が主催する「保育園にあそびにきませんか」、「子どもフェスティバル」へも他保育園ともども積極的に協力・参加し、子育て相談に職員を派遣したり、園庭開放や園の「パラバルーン」など遊具の貸し出しを行うなど、保育の専門知識を活かし、地域に貢献している。港南中央ケアプラザの高齢者との交流会には子どもたちも参加し、高齢者に声を掛けられたり、歌を唄ったりし、子どもたちにとって貴重な社会体験になっている。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 園独自活動としての地域子育て支援

子育て相談の受入れに関して、保育園前掲示板や独自ホームページに積極的なアピールが見当たりません。地域の子育て中の保護者に対して、明確な受け入れの表明を期待いたします。また、一時的に中断している「ベビーマッサージ講習」や「離乳食講習」への講師派遣など、地域への保育の専門家としてのさらなる貢献復活を期待いたします。

2. 設置法人理念である「職員が楽しく働けること」の具現化

家族アンケートの中で、『施設設備』および『子どもは落ち着いて過ごせる』の設問で、不満に関し、「どちらかといえば不満」「不満」を合わせると、それぞれ39%、28%に達しており、施設への満足度は前年同様かなり低いです。また、自由意見の中でも、施設の狭いことからの問題点の指摘が数多く見られます。子どもの落ち着ける空間、および、職員の更衣室や休憩空間の創出に向けて、ビル上階の空室賃借案などを含め、保育環境の改善について検討する時期に来ていると考えられます。

評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ・子どもの人権を尊重した保育について、子どもへの言葉遣いや対応については、日々の保育の中で職員相互に確認し合い、職員会議で討議の上振り返るようにしている。
- ・子どもは事務室または更衣ロッカーの脇など、必要に応じてほかの子どもから離れ、視線を気にせず過ごせるスペースがあり、プライバシーを守ることできる。
- ・個人情報保護マニュアルにより、守秘義務や個人情報の処理方法等について、全職員は入社時に説明を受け熟知している。保護者に対しては、入園時説明会で説明している。
- ・子どもの名簿は五十音順、整列も身長順で、遊びや役割、食事の席、持ち物、服装など性別による区別はしていない。日頃より、職員には性差による差別的発言や態度、固定観念で保育しないように職員会議でお互いに話し合っている。
- ・虐待が疑わしい場合は設置法人や横浜市南部児童相談所などに連絡を入れ対応する。支援が必要と思われる保護者には、活動ノート以外に個人連絡帳を利用してコミュニケーションを図り、信頼関係を築いて支援するように心掛けている。
- ・文化や生活習慣の違う子どもの入園に際しては、保護者から情報を入手し、保護者の納得の行くように対応している。ほかの子どもに対して職員は、文化の違いを判り易く説明するが、違いをあまり意識させない保育を心掛けている。

2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・入園時には保護者より家庭調査票・健康児童調査票等の書類を提出してもらい、子どもの情報は職員がいつでも閲覧し共有できるよう個別ファイルにまとめ、職員は情報を日々の保育に活かしている。
- ・慣らし保育については、保護者には、子どもは周囲の状況や環境の変化で体調を崩しやすくなることを説明の上、1週間から1ヶ月ぐらいの早めのお迎えなど相談をして決めている。
- ・施設の24時間自動換気システムに加えて、職員は時間をみて窓をあけたり、空気清浄機を使用して換気を行っている。各部屋に室温・湿度計を付けており、午前/午後計測・確認し、日誌に記録している。保育室は西に面するため、夕方はロールカーテンを閉めるなど日光を調節している。
- ・保育室は、食べる空間/午睡の空間に分けることができないが、職員は、食

事後の消毒拭き掃除など清潔維持には注力している。

- ・保育室は広くないので余裕のある環境づくりは難しいが、クラス毎の空間をコーナーとして遊べるよう工夫している。
- ・自由遊びでは一人一人を尊重し、自分で考えて遊べるように、職員は見守るようにしている。
- ・園ではリトミックや体操教室・英語教室、製作の時間を設けて、発達に応じて子どもが思いを自由に表現できるようにしている。3歳児以上は各自の自由画帳・クレヨン・粘土を用意しており、子どもたちは朝夕の自由時間には各々取り出して遊んでいる。
- ・園庭では、きゅうり、トマト、オクラなどの野菜を育てており、設置法人の放射能検査が終了後収穫し、クッキング保育等の食材として使用している。
- ・子ども同士のけんかは、職員は安全を最大限に重視しながら見守り、双方の言い分を聞きながら、自分たちで解決をできるように支援している。
- ・乳児の授乳は、一人一人の子どもに合わせた時間間隔で授乳している。与える際は、一人一人抱いて授乳し、目と目を合わせて声をかけながら与えている。
- ・幼児の食事の量は子どもにあわせて量を調節し、子ども自身が食べ終えたことに満足ができるように配慮している。子どもたちは当番を決め、配膳の手伝いをし、食器等の片付けは各自で決められた場所に片付けをしている。
- ・食材は、安全を考慮し、産地を掲示している。食器については、全て強化磁器を使用し、安全に配慮をしている。
- ・栄養士は昼食時やおやつ時に自らクラスに入り、子どもたちと話をしながら様子を観察し、毎日の残食記録や毎月の給食会議でクラスからの意見を取り入れ、翌月の献立作成に活かしている。
- ・保護者は毎年1回の試食会で給食を食べ、子どもの食べている量や味付け、調理方法を栄養士より説明を受けている。
- ・保護者から相談の依頼があれば事務所や更衣スペースで、または保育室を空けてコーナーで相談を受け、個別面談は、個別相談記録に記録し、相談内容は職員全体に伝え、全ての職員が対応できるようになっている。
- ・園としては、配慮を必要とする子どもでも、できるだけ特別な扱いはせず、無理な部分はサポートをしながら、普通児と差別なく一緒に遊べるようにと考えている。
- ・午睡時はカーテンをひき、うす暗くして静かに眠れるようにしている。眠れない子には、職員がそばについて安心して眠れるようにし、年長は就学に向けて1月頃より午睡を取りやめている。
- ・一人一人の排泄に関しては個人差を尊重し、個々のリズムに合わせて支援し、トイレトレーニングは子どもの発達に合わせ無理をしないように行っている。排泄状況は連絡帳に記載し、保護者に伝えて連携して行っている。

3.サービスマネジメントシステムの確立

- ・保育課程は、子どもの最善の利益を考え、子どものくつろげる時間や安心してできる雰囲気作りなどを考慮して作成している。また地域の働く保護者の実状に配慮し、急な延長保育要請に対しても可能な限り対応する姿勢も打ち出している。
- ・3歳児未満は子ども一人一人の個別指導計画を、職員同士で話し合ったり、送迎時の話から保護者の意向を取り入れ作成をしている。特別に支援を必要としている子どもの場合は、3歳児以上でも個別指導計画を作成する。
- ・職員は子どもの発達状況を話し合いながら、個別月案の見直しを行っているが、重大な変更がある場合には事前に保護者に説明し、了解を得ている。
- ・子どもの発達に合わせて作成される指導計画については、クラスリーダーを中心に職員同士で当月の振り返りを行い、その結果を活かし、翌月・翌週の月案・週案を作成している。

- ・毎日のプログラム実行に際しては、子どもに今日はどんなプログラムを行うのか説明している。自由遊びでは子どもの意見を取り入れたり、日頃の活動から子どもの良い点を見つけ、ほめることで自信を持たせるようにし、自分でやりたいという意識がもてるように支援している。また、毎日の活動の振り返りで週案を見直し、子どもの発達状況にあわせて修正をしている。
- ・食物アレルギーの疑いのある子どもに対しては、アレルギー検査を受けて医師の指示書をもらい、その指示書に従い代替食や除去食を提供している。
- ・健康診断は年2回 歯科健診は年1回嘱託医により行われている。診断の結果はその日のうちに、健診結果用紙で保護者に伝え、記録は個人ファイルに保管し、健診日に登園できなかった子どもは、後日嘱託医で受診している。
- ・園は年間、月間など各指導計画の中で振り返り、課題や改善点を見出して次の計画につなげている。また、職員はみずから自己評価を行い、職員会議やミーティングの中で、工夫や改善事例などを話し合い、一層のサービス向上に役立っている。
- ・職員の育成プログラムに関しては設置法人として、経験年数に応じた知識や技術、能力や習熟度の期待水準を記した計画を策定している。
- ・苦情受付窓口として、園長と主任の名前を玄関の壁に掲示し、第三者委員の名前と連絡先も玄関に掲示しており、保護者は直接、意見や相談、苦情を申し立てることができる。また、外部への苦情の申立てについては、入園のご案内に港南区のこども家庭支援課の連絡先を記載している。
- ・健康診断は年2回 歯科健診は年1回嘱託医により行われている。診断の結果はその日のうちに、健診結果用紙で保護者に伝え、記録は個人ファイルに保管し、健診日に登園できなかった子どもは、後日嘱託医で受診している。
- ・毎日の清掃チェック表により園内外、おもちゃなどの消毒も行い、清潔に保つようしている。
- ・安全管理マニュアルについて、定期的に職員の研修を行っている。マニュアルは職員会議・ミーティングで話し合い職員に周知を行っている。毎月他園研修として各園の安全チェックを行い、安全への見直しや再確認を行っている。

4.地域との交流・連携

- ・横浜市港南区では、昨年度から、地域との交流として、「保育園で遊びましょう」を実施し、親子が遊びに来ており、実施後参加の方から、アンケートをとり、地域の状況の把握に努め、職員会議にて職員間で話し合いを行っている。
- ・港南区役所と協力して近くのふれあい公園で「子どもフェスティバル」を行い、地域の多くの方々の参加を得ている。そこでは育児相談を行い、子育てや離乳食について相談を受け、詳しく説明している。
- ・園の夏祭り、運動会のお知らせポスターを、地域の商店街の花屋さんの協力を得て店先に貼り出している。運動会のプログラムには地域の未就学児童が参加できるプログラムを加えている。
- ・地元の上大岡小学校とは、年長児が就学前に小学生が勉強している様子を見学し、一緒に遊び、校長先生のお話を聞き連携を図っている。
- ・港南地域ケアプラザでは年1回、お年寄りや歌や遊びを一緒に行って交流し、子どもの社会経験の一つとして、友好的な関係を築くように心掛けている。
- ・散歩の際には、地域の方と積極的に挨拶を交わし、上大岡公園、港南ふれあい公園、笹野橋公園などを利用している。
- ・入園希望の見学者には、料金やサービス内容について伝え、「入園のご案内」を渡して詳しく説明している。見学後にはアンケートを提出してもらい、地域ニーズの把握に役立るとともに、子育て相談の役割も果たしている。
- ・園の運営やサービス内容などは、ホームページ、パンフレット、「入園のご案内」に掲載しており、電話等での問い合わせには園長や主任が説明し、対応している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・港南区のこども家庭支援課や福祉保健センター、医療機関、横浜市南部地域療育センター、近隣の保育園、小学校など日常的に連携をとり、得られた情報は、事務室に掲示し、職員会議においても連絡し、職員間で共有している。
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人は、職員の経験年数に応じた知識や技術、能力や習熟度の期待水準を記した計画を策定している。 ・園長は可能な限り現場の職員に権限委譲し、フロアーリーダーを中心に現場で判断し、園長に報告することで園長が最終的な責任を取る体制となっている。 ・倫理規定は就業規則に明示されており、職員はそれに沿って業務を遂行している。設置法人から保育園運営に関わる業界の不正・不適切事例の記事や情報が送信されると内容を全職員に伝え、必要があれば職員会議の議題として話し合っている。 ・エコ活動として、ボトルキャップの回収を、子どもたち、保護者に園だよりや掲示をして呼びかけている。また、新聞広告やカタログ雑誌を折り紙に使うなど保育のなかで利用したり、コピー用紙の再利用をしてごみの減量化につとめている。 ・重要な意思決定については、職員間で協議し、園運営に変更がある場合は、保護者にその目的・理由・経過説明をお手紙や掲示で伝えている。 ・利用者本人の尊重を基盤とした設置法人の保育理念、基本方針に加えて、園目標として「元気に育て心と体」を掲げ、さらに子どもにもわかるように①あいさつをしましょう②よいことかわるいことかかんがえましょう③げんきにあそびましょうを職員で策定し、保育に当たっている。保育理念、基本方針、園目標は、保護者にも4月の保護者会で伝えており、園内の玄関に掲示をしている。 ・設置法人においては次代の保育園運営に関し、外部の専門家の意見などを取り入れながら、新しいプロセス、仕組みを検討している。
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人材育成に当たっては、設置法人が職員の階層別年間研修計画を策定し、園の理念・方針をふまえた保育の質向上・維持に努めている。 ・職員は個人目標を立て、自己査定シートに基づき評価を行い、園長とエリア長と面談をし、一人一人振り返りをして達成度を確認し、次年度計画につなげている。 ・常勤・非常勤職員とも内外の研修会に参加し、研修受講後は、研修レポートを提出し、職員会議で報告し、共有して実践に活かすように努めている。 ・非常勤職員には、設置法人編纂の「明日への保育」が配布されている。この冊子は、日本の保育の現状や子育てのノウハウ、保育の精神などが詳細に漫画を含めて記述されている。 ・設置法人内の支社会議やエリア会議でサービス向上のため、外部から保育の指導を受けられる仕組みができています。職員は外部の防災に関する研修を受講し、レポートを報告し、園内のミーティングを利用して話し合いを行って、レベルアップを図っている。 ・設置法人の研修プログラムに主任養成プログラムがあり、主任は職員個々の業務状況を把握し、職員、非常勤職員と事前に話し合いを行い、個々の事情や健康状態を把握し、クラス運営への支障がないかなどを考慮した上でシフト表を作成している。また、主任は職員一人一人に助言をし、精神面、肉体的にも配慮しながら業務を行っている。 ・実習生・ボランティアの受け入れ担当者は園長と主任が担当している。実習生の受入れに関しては実習プログラムがあり、効果的な実習が行われるように努めている。実習後は職員との話し合いの機会を設けている。

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人の保育理念、基本方針に加えて、園目標として「元気に育て心と体」を掲げ、さらに子どもにもわかるように①あいさつをしましょう②よいことかわいことかかんがえましょう③げんきにあそびましょうを職員で策定して、保育に当たっている。保育理念、基本方針、園目標は、保護者にも4月の保護者会で伝えており、園内の玄関に掲示をしている。 ・保育課程は、子どもの最善の利益を考え、子どものくつろげる時間や安心できる雰囲気作りなどを考慮して作成している。また地域の働く保護者の実状に配慮し、急な延長保育要請に対しても可能な限り対応する姿勢も打ち出している。 ・年間指導計画・月案・週案は保育課程に基づいて年齢ごとに作成し、毎日のプログラム実行に際しては、子どもに今日はどんなプログラムを行うのか説明している。自由遊びでは子どもの意見を取り入れたり、日頃の活動から子どもの良い点を見つけ、ほめることで自信を持たせるようにし、自分で行いたいという意識がもてるように支援している。また、毎日の活動の振り返りで週案を見直し、子どもの発達状況にあわせて修正をしている。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との個人面談（6月・1月）では、家庭での子どもの様子をきいたり、園での子どもの生活の様子を伝えたりして、内容は面談シートに記録をしている。 ・入園時には保護者より家庭調査票・健康児童調査票等の書類を提出してもらい、子どもの情報は職員がいつでも閲覧し、共有できるよう個別ファイルにまとめており、職員は情報を日々の保育に活かしている。 ・慣らし保育については、子どもは周囲の状況や環境の変化で体調を崩しやすくなることを説明の上、1週間から1ヶ月ぐらいいの間早めのお迎えを提案するなど、保護者と相談をして決めている。 ・保護者との連絡は、0～2歳児は連絡ノートを使用し、家庭の様子や保育園での様子を詳細に記録、情報交換し、3歳児以上の子どもについては、その日の様子を、職員が口頭で伝えるとともに、クラスごとに活動ノートを用意し、当日の活動状況を保護者に伝え、見た保護者からはサインをもらっている。 ・子どもの発達に合わせて作成される指導計画については、クラスリーダーを中心に職員同士で当月の振り返りをし、その結果を活かし、翌月・翌週の月案・週案を作成している。 ・保護者の意向は、送迎時の職員との立ち話や個人面談等でくみ取り、指導計画に反映している。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・清掃はマニュアルに基づいて、昼寝前、終業後の2回に加えて必要時に行い、終了後には清掃記録表に記録している。
- ・施設の24時間自動換気システムに加えて、職員は定期的に窓をあけたり、空気清浄機を使用して換気を行っている。各部屋に室温・湿度計を設置し、午前・午後に計測・確認し、日誌に記録している。保育室は西に面するため、夕方はロールカーテンを閉めて日光を調節している。
- ・ワンフロアで特にクラスごとに部屋が分かれていないため、音楽を使用する際や声が大きいときなどは、職員同士で声かけ合い、お互いのプログラムの邪魔にならないように配慮している。
- ・温水シャワーは汗をかいたり、お尻がかぶれているときに使用し、使用後はその都度清掃して清潔を保っている。
- ・ワンフロアの保育室は、活動内容によりマットや仕切りを使ってエリアを分け、運動会の団体練習などでは、仕切りの収納棚を全て壁に押しやって大フロアを作りだし、工夫している。
- ・保育室は、食べる空間・午睡の空間に分けることができないが、職員は、食事後は消毒液による拭き掃除を行い清潔維持に注力している。
- ・3～5歳児は異年齢保育の活動時や自由遊びの時間帯と一緒に絵本を見たりして、一日のなかで異年齢交流での接触の機会が多い。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・個別指導計画は、3歳児未満は全員作成し、職員同士で話し合っただけで送迎時の話から保護者の意向を取り入れ作成をしている。特別に支援を必要としている子どもの場合は、3歳児以上でも個別指導計画を作成している。
- ・職員は子どもの発達状況を話し合いながら、個別月案の見直しを行っているが、重大な変更がある場合には事前に保護者に説明し、了解を得ている。
- ・子ども一人一人の情報は家庭調査票・健康調査票・児童票に記録され、また、乳児は毎月、幼児は3か月毎に子どもたちの発達状況を記録し、個別にファイルし、施錠できるロッカーに入れている。必要時、職員はいつでも見られるようにしている。
- ・進級時は児童票をもとに、新しいクラス担任に口頭で伝え、引き継ぎを行っている。
- ・年度末には保育所児童保育要録を作成し、小学校に届けている。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・ 配慮を要す子どもに対する最新の保育知識を職員は研修で学び、研修報告書により職員は知識を共有している。
- ・ 障がい児に関して、園の職員用のトイレは車椅子対応が可能で、保育室もワンフロア、バリアフリーになっており、何時でも受入可能な体制にある。
- ・ 園としては、配慮を必要とする子どもでも、できるだけ特別な扱いはせず、無理な部分は支援しながら、普通児と差別なく一緒に遊べるようにと考えている。
- ・ 虐待が疑わしい場合は設置法人や横浜市南部児童相談所などに連絡を入れ対応する。支援が必要と思われる保護者には、活動ノート以外に個人連絡帳を利用してコミュニケーションを図り、信頼関係を築いて支援するように心掛けている。
- ・ 食物アレルギーの疑いのある子どもに対しては、アレルギー検査を受けて医師の指示書をもらい、その指示書に従い代替食や除去食を提供している。
- ・ 食物アレルギー食を提供する際は、誤食事故を防止するために、色別のトレーやカード、机を別に用意し、栄養士と職員及び職員同士の口頭によるダブルチェックを行っている。
- ・ 文化や生活習慣の違う子どもの入園に際しては、保護者から詳しく情報を入手し、保護者の納得の行くよう対応している。ほかの子どもに対して職員は、文化の違いを判り易く説明するが、違いをあまり意識させない保育を心掛けている。

評価分類

評価の理由（コメント）

I-6 苦情解決体制



- ・ 苦情受付窓口として、園長、主任の名前と第三者委員の名前と連絡先を玄関に掲示しており、保護者は直接、意見や相談、苦情を申し立てることができる。また、外部への苦情の申立てについては、入園のご案内に港南区こども家庭支援課の連絡先を記載している。
- ・ 苦情が園単独での解決が困難な場合は、設置法人の担当部署へ連絡をしたり、港南区こども家庭支援課と連携をとり解決することとしている。
- ・ 苦情があった場合は、職員会議等で話し合い、全職員に周知し、対応策を打ち出している。
- ・ 過去に受けた苦情に関しては、クレーム受理表に記載の上、ファイルで保管をしている。

評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="181 219 491 250">Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p> <div data-bbox="204 421 539 519" style="text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・園は子どもの発達、年齢に沿ったおもちゃを数多く用意し、自由時には職員が子どもの希望に添ったおもちゃ箱を持ちだし、子どもは中から自由に取り出して遊んでいる。 ・保育室は広くないので余裕のある環境づくりは難しいが、クラス毎の空間をコーナーとして遊べるよう工夫している。 ・自由遊びでは一人一人を尊重し、自分で考えて遊べるように職員は見守っている。 ・園庭では、きゅうり、トマト、オクラなどの野菜を育てており、設置法人が放射線検査をしてから、クッキング保育等の食材として使用している。 ・子どもたちは散歩の際、地域の方々や近隣の保育園の子どもたちに挨拶をし、地域とのふれあいを大切にしている。 ・園の周辺には、小さい公園から緑が豊富な大きな公園もあり、その中で、動植物を観察し、木の実や虫を捕ったりして、季節ごとの自然とふれあう機会を設けている。 ・園ではリトミックや体操教室・英語教室、製作の時間を設けて、発達に応じて子どもが自由に自分の思いを表現できるようにしている。3歳児以上は各自に自由画帳・クレヨン・粘土を用意しており、子どもたちは朝夕の自由時間にそれぞれ取り出して遊んでいる。 ・子ども同士のけんかは、職員は安全を最大限に重視しながら見守り、双方の言い分を聞きながら、自分たちで解決をできるように支援している。 ・毎週1回、3～5歳児は縦割り保育として異年齢のクラスで活動をしている。また、朝、夕は0～5歳児の子どもたちが日常的に合同保育として関わりを持って遊んでいる。 ・天気の良い日にはできるだけ散歩や園庭遊びなど屋外活動を実施している。屋外で活動をする際は、健康チェックを行い、紫外線対策としては帽子を着用し、季節によっては家庭で日焼け止めを塗ってきてもらうなど、個々に対応している。 ・年齢に合わせて、公園を変えて遊べる遊具を選択・使用したり、乳児は、園庭にある子どもの車に乗ったりして遊んでいる。 ・体調のすぐれない子に関しては、皆が屋外に出掛けている際も事務所やほかのクラスでゆっくり過ごせるように配慮をしている。

Ⅱ－1 保育内容[生活]



・幼児の食事は子どもにあわせて量を調節し、子ども自身が食べ終えたことに満足ができるように配慮している。当番になっている子どもたちは配膳の手伝いをし、食器等の片付けは各自で決められた場所に片付けをしている。

・毎月1回のランチメニューでは、栄養士が季節に合わせてテーマを考え、見た目も楽しめるように工夫されている。

・食材は、安全を考慮し、産地を掲示している。食器については、全て強化磁器を使用し、安全に配慮をしている。

・栄養士は昼食時やおやつ時に自らクラスに入り、子どもたちと会話をしながら様子を観察し、毎日の残食記録や毎月の給食会議でクラスからの意見を取り入れ、翌月の献立作成に活かしている。

・献立は月末に翌月分を保護者に配布し、各クラスにも掲示をし、毎月の給食便りでは、クッキング保育の内容や、誕生会ケーキの写真を掲載している。保護者は毎年1回の試食会で給食を食べ、子どもの食べている量や味付け、調理方法を栄養士より説明を受けている。

・午睡時はカーテンをひいてうす暗くし、静かに眠れるようにしている。眠れない子には、職員がそばについて安心して眠れるようにしている。

・乳幼児突然死症候群の対策としては、0歳児は5分に1度、1歳児は10分に1度の呼吸確認をし、記録している。うつ伏せになる子は仰向けに直している。年長児は就学に向けて、1月頃より午睡を取りやめている。

・排泄に関しては個人差を尊重し、個々のリズムに合わせて支援し、トイレトレーニングは、一人一人の発達に合わせて無理のないように行っている。排泄状況は連絡帳に記載し、保護者に伝えている。

<コメント・提言>

乳児の授乳の際は、マニュアルでは一人一人抱いて行うとなっておりますが、必ずしも実行できていません。保育所保育指針に示されているように、子どもの健康及び安全に示された事項を踏まえ、適切に対応することを期待します。

Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・健康管理マニュアルに則り、子どもたちの健康に関するデータは個人ファイルに保管しており、職員は子どもたちの平熱・留意点を周知している。0～2歳児は毎朝検温・記録をとり視診をしている。
- ・保育中に体調を崩した子どもは、保護者に連絡をとり、必要に応じてお迎えをお願いし、看護師・職員がお迎えまでの経過を記録し、保護者に伝えるようにしている。
- ・2～5歳児は食後の歯磨きをしている。歯科健診のときには、歯科衛生士による紙芝居などを使っての歯ブラシ指導をしている。
- ・健康診断は年2回 歯科健診は年1回嘱託医により行われている。診断の結果はその日のうちに、健診結果用紙で保護者に伝え、記録は個人ファイルに保管し、健診日に登園できなかった子どもは、後日嘱託医で受診している。
- ・感染症についての登園停止基準などは4月の保護者会でプリントを配布し、保護者に説明している。感染症が流行する時期には、事前に注意・症状・予防法などをプリント配布、掲示をしている。
- ・保育中に発症したときには、子どもを事務所などに隔離して、保護者に速やかに連絡している。
- ・地域で感染症がでたときには、港南区保健センターの指示に従い対応するとともに、掲示をして保護者に伝えている。

Ⅱ－2 健康管理・衛生管理・安全管理[衛生管理]



- ・衛生管理マニュアルは各園からの意見に基づき、設置法人でその都度検討し、改正を行っている。
- ・マニュアルの変更・改定などの結果は、職員会議やミーティングで職員に伝えている。
- ・毎日、園内外の清掃、おもちゃの消毒などを行い、清掃チェック表に記載して確認し、清潔に保つようになっている。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理[安全管理]



- ・安全管理マニュアルについて、定期的に職員の研修を行っている。マニュアルは職員会議・ミーティングで話し合い職員に周知を行っている。毎月他園研修として系列各園の職員同士で安全チェックを行い、安全への見直しや再確認を行っている。
- ・地震対策として家具などの転倒防止を施している。
- ・緊急連絡表や自衛消防隊組織を掲示して、職員が誰でも対応できるようにしている。
- ・救急救命法を職員が身につけている。
- ・緊急連絡機関のリストを玄関フロアに掲示し、緊急時には職員誰でも連絡できる体制をとっている。
- ・子どもがけがをしたときには、軽傷であっても保護者に連絡をし、園内のアクシデント・レポートに記録して、対応策の立案を含め、今後の事故防止に役立てている。
- ・事故内容は職員全員に周知できるよう伝言板や職員会議で報告し、改善策などについて話し合っている。
- ・不審者対策として、玄関はオートロック式になっており、来訪者を確認してから開錠している。また、警備保障会社と契約しており、園内に監視カメラを設置している。
- ・散歩や園外保育のときにはココセコム（GPS機能付き非常事態発信機）を持参し、万一のために対策している。職員と子どもたちには、不審者対応訓練を行い、速やかに避難できるようにしている。
- ・横浜市港南区のスクール・ポリスネットなどで不審者情報が出たときには、掲示して保護者に知らせるようにしている。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>II-3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人権尊重に関し、子どもへの言葉遣いや対応について、日々の保育の中で職員相互に確認し合い、職員会議で討議の上、振り返るようにしている。 ・子どものケンカの時も、お互いの気持ちを察し、子どもの気持ちを汲んで、穏やかに話しながら子どもの発達や年齢に応じて丁寧に対応している。 ・子どもは事務室または更衣ロッカーの脇など、必要に応じてほかの子どもから離れ、視線を気にせず過ごせるスペースがあり、プライバシーを守ることができる。 ・設置法人の個人情報保護マニュアルにより、守秘義務や個人情報の処理方法等について、全職員は入社時に説明を受け周知している。保護者には、個人情報の取り扱いについて入園時説明会で説明している。 ・子どもの名簿は五十音順で、整列は身長順とし、遊びや役割、食事の席、持ち物、服装など性別による区別はしていない。日頃より、職員には性差による差別的発言や態度、固定観念で保育しないように、職員会議で話し合っている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールハウスなどで仕切ったりして、保育室内で子どもが一時やすらぐ空間創出の工夫を期待します。
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人の運営理念は、パンフレットや「入園のご案内」に明記し、保育の基本方針については、入園説明会やクラス懇談会、年度初めの保護者会で説明している。 ・0～2歳児は連絡ノートにて、3～5歳児には活動ノートで毎日の子どもの園での様子を伝え、家庭での様子も記入してもらい、お互いに情報交換を行っている。 ・子どもの作品を保育室や廊下に掲示するなどして、その日の様子を知らせ、日常の保育の様子、行事の様子などの写真はホームページに「イベント情報」として掲載している。 ・毎月、園だより、クラス便り、給食だより、英語・体操・リトミックの専任講師プログラム、法人からの保健だよりを発行し、配布・掲示している。 ・保護者会は、全体会のほかに、クラス懇談会を実施してクラス全体の生活や遊びの様子を伝えている。欠席者には後日、会報を配布して知らせている。 ・保護者には、年度初めに、年間行事予定表を配布し、予定を立てやすいように知らせている。 ・保護者との面談は、年2回、期間を設けて行っている。保育参観は年2回(6月、1月)期間を設けて行い、保育参加は年1回行っている。 ・保護者から相談の依頼があれば事務所や更衣スペースで、または保育室を空けて相談を受けることがあり、個別面談の記録は、個別相談記録に記載し、全職員で情報を共有できるようにしている。 ・保護者会とは、要望があれば、場所を提供したり、必要に応じて職員も参加して、会の運営の相談に応じている。 ・保護者会は、開催しやすいように土曜日に行い、バザーを開催したり、物品の受け渡し、夏祭りにはゲームコーナーのお手伝いをしたり、運動会には保護者の出場のプログラムも行い、常に連携を図っている。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市港南区では、昨年度から、地域との交流として「保育園で遊びましょう」を実施し、親子が遊びに来ており、実施後参加の方からアンケートをとり、地域の状況の把握に努め、職員会議にて職員間で話し合いを行っている。 ・近くのふれあい公園で行われる港南区の「子どもフェスティバル」に、地域の方々が多く参加している。港南区役所と協力して育児相談を行い、子育てや離乳食について相談を受け、地域の子育て情報を得ている。 ・公園への散歩の際に、地域の京急キッズランド上大岡などの他の保育園と交流する機会があり、園庭開放も随時実施している。 ・なお、地域の子育てニーズについての検討会・研究会、地域住民を対象にした子育てや保育に関する講習・研修会を実施するには至っていない。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方を対象にした子育てや保育に関する育児講座や講習・研修会の開催を検討されるよう提言します。
<p>Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園希望者の電話や見学の際に、離乳食やトイレトレーニングの進め方、おもちゃの扱い方など育児に関する相談を受けてアドバイスしている。 ・育児相談は定期的な相談日を決めての実施はしていないが、港南区主催の行事に参加し、相談を受けたり、アンケートをとり情報を得ている。 ・園庭開放については、港南区保育園地域子育て支援情報紙に掲載している。園の夏祭り、運動会には、お知らせポスターを地域の商店街の花屋さんの協力を得て店先に貼りだしている。運動会のプログラムには、地域の未就学児童の参加する遊びを加えている。 ・港南区こども家庭支援課や福祉保健センター、医療機関、横浜市南部地域療育センター、近隣の保育園、小学校などと日常的に連携をとっている。これらの情報は、事務室に掲示し、職員会議においても連絡し、職員間で共有している。 ・諸関係機関との連携は主に園長が担当している。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・港南区こども家庭支援課が主催する「保育園にあそびにきませんか」の行事に、園庭会報などで参加していますが、さらに育児相談の場も設けて対応するよう望みます。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭りや運動会のポスターを園の玄関に貼ったり、近隣の花屋さんに掲示してもらい、地域の方の参加を呼びかけ、卒園児には招待状を発送して、地域の子どもの参加を得ている。 ・ふれあい公園で行われる、港南区が推進している「子どもフェスティバル」に参加し、子育てや離乳食についての育児相談を受け付け、パラバルーンなどの遊具の貸し出しを行っている。 ・地元の上大岡小学校とは、年長児が小学生が勉強している様子を見学し、一緒に遊び、校長先生のお話を聞く機会を持ち、連携を図っている。 ・港南地域ケアプラザと年1回、お年寄りと歌や遊びを一緒に行って交流し、友好的な関係を築くように心掛けている。 ・散歩の際には地域の方と積極的に挨拶を交わし、上大岡公園、港南ふれあい公園、笹野橋公園などを利用している。 ・運動会は桜岡小学校の校庭を借りたり、市立久良岐公園を利用している。お泊まり保育では、「こども自然野外センター」を利用している。 ・毎月のクッキング保育で、3・4・5歳児が近くの商店街の八百屋さんなどに買い物に行き、地域の方と積極的に挨拶を交わし、地域の方に園庭開放も行っている。 ・地域の京急キッズランド上大岡保育園、上大岡東保育園、上大岡ゆう保育園とも交流している。
<p>Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の運営やサービス内容などは、ホームページ、パンフレット、「入園のご案内」に掲載しており、分かりやすく情報提供している。 ・入園希望の見学者には、保育園の基本方針や利用条件、料金、サービス内容等について、パンフレット、「入園のご案内」等の資料や文書に基づいて説明している。 ・港南区の発行している保育園案内に園の情報を掲載し、地域情報紙「まみたん」（NPO法人全国タウンフォーラムのホームページ）、「ぼど」に園の様子を伝え情報を提供している。 ・問い合わせには、園長や主任が説明し、対応している。随時見学ができることを伝え、行事のないときで、なるべく園児が活動している時間帯に見学することを勧めている。見学後はアンケート用紙に記入し、提出してもらっている。
<p>Ⅳ－３ ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの受け入れに当たっては、設置法人によるボランティア受け入れマニュアルが整備され、受け入れ体制はできている。昨年度は専門学生と高校生各1名を受け入れたが、今年度はまだない。 ・ボランティアの感想や意見を記入する所定の書式があり、園運営に反映させるように努めている。 ・実習生の受け入れ担当者は園長と主任が担当している。実習生の実習プログラムがあり、効果的な実習が行われるように努めている。訪問調査日に、専門学校の生徒が一人実習中であった。 ・実習後は職員と話し合いの機会を設けている。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園長は、園運営に十分な人材構成であるかを常にチェックし、必要時には設置法人と相談の上、補充を行っている。 ・職員の人材育成に当たっては、設置法人が職員の階層別年間研修計画を策定し、園の理念・方針をふまえた保育に努めている。 ・職員は個人目標を立て、自己査定シートに基づき評価を行い、園長とエリア長と面談をし、振り返りをして達成度を確認し、次年度計画につなげている。 ・常勤・非常勤職員とも内外の研修会に参加し、研修受講後は、研修レポートを提出し、職員会議で報告し、実践に活かすように努めている。 ・非常勤職員には、設置法人編纂の「明日への保育」が配布されている。この冊子は、日本の保育の現状や子育てのノウハウ、保育の精神などが漫画を含めてわかりやすく記述されている。 ・非常勤職員は、入社時に常勤職員と同様、新任研修を受講し、日常の指導は、OJTにより主任が指導を担当し資質向上を図っている。 ・非常勤職員は、職員会議やミーティングの内容を議事録により確認し、把握している。

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間、月間、週間の各指導計画、保育日誌などの定型化された書式があり、それぞれ「評価・反省」欄が設けられていて振り返りを行って記入している。 ・月間指導計画の「評価・反省」欄には、子どもの様子などを記述し、子どもの育ちや意欲などを重視して行っている。 ・年間、月間など各指導計画の中で振り返り、課題や改善点を見出して次の計画につなげている。 ・職員は個別に自己評価を行い、職員会議やミーティングの中で、工夫や改善事例などを話し合い、一層のサービス向上に役立っている。 ・設置法人内の支社会議やエリア会議で、サービス向上のための外部から保育の指導を受けられる仕組みができています。職員は外部の防災に関する研修を受講し、レポートを提出し、園内のミーティングを利用して話し合いを行って、レベルアップを図っている。 ・保育園の自己評価は当園の運営理念や保育方針、保育課題に沿って実施しているが、園長が就任して間もないため、当園として課題を抽出したり、改善に取り組むことはできていない。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の中からの反省にも絶えず気を配り、課題として取り上げていく園運営を期待いたします。

<p>V-3 職員のモチベーションの維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・設置法人として、職員の経験年数に応じた知識や技術、能力や習熟度の期待水準を記した人材育成計画を策定している。 ・園長は、可能な限り現場の職員に権限委譲し、フロアーリーダーを中心に現場で判断し、園長に報告することで最終的な責任を取る体制となっている。 ・職員の面談は定期的に行い、現状の問題や意見・提案を聞いて業務改善につなげ、職員の満足度や要望なども確認している。
---	---

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理規定は就業規則に明示されており、職員はそれに沿って業務を遂行している。 ・設置法人のホームページで財務諸表・会社の運営状況を公開している。 ・設置法人から、保育園運営に関わる業界の不正・不適切事例の記事や情報が送信され、内容を全職員に伝え、必要があれば職員会議の議題として話し合っている。 ・エコ活動として、ボトルキャップの回収を、子どもたち、保護者に園だよりや掲示をして呼びかけている。また、新聞広告やカタログ雑誌で折り紙作りをし、保育のなかで利用したり、コピー用紙を再利用をしてごみの減量化につとめている。 ・すだれを利用したり細かな室温、湿度の計測をして節電に努め、また、保育の一環として園庭で植物を育て、緑の大切さを子どもたちにわかりやすく伝えている。 ・絵本のリサイクル活動に関し、保護者に協力をお願いしている。
<p>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員に園の理念・基本方針を絶えず目に付くように掲示したり、理念が印刷されている冊子「明日への保育」を配布し、周知に努めている。また、理念について職員会議などで園長から説明をし、年二回の全職員の園長面談においては、理念の原点に立ち戻って職員と話し合う努力をし、職員の理解度については気を配っている。 ・園長の異動や園の重要事項の変更などについては、保護者会で詳しく説明をして、保護者と意見交換をしている。 ・重要な意思決定については、職員間で協議し、変更がある場合は、保護者にその目的・理由・経過説明をお手紙や掲示で伝えている。 ・設置法人の研修プログラムに主任養成プログラムがある。主任の仕事としては、職員個々の業務状況を把握し、職員・非常勤職員の個々の業務状況や、事情、健康状態を把握し、クラス運営への支障がないかなどを考慮した上でシフト表を作成している。また、主任は職員一人一人に助言をし、精神面、肉体面も配慮しながら業務を行っている。
<p>VI-3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園は設置法人より事業運営に関わる情報を受け取ると、園として必要な事項については職員に伝え、共有し、または、主任・フロアリーダーに伝え、討議することもある。 ・感染症・アレルギー児の誤食・誤薬など全職員が周知すべき事柄については、速やかに会議を開き、園全体の問題として話し合っている。 ・園の中期目標は前年度同様引き継いでいるが、25年（本年度）までの計画しか立案されていない。 ・設置法人においては次代の保育園運営に関し、外部の専門家の意見などを取り入れながら、新しいプロセス、仕組みを検討している。 ・設置法人は幹部職員育成プログラムを設定し、計画的に人材育成を図っている。 <p><コメント・提言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期にわたる課題を職員間で討議・整理し、目標を持った園運営が望まれます。

利用者家族アンケート

施設名:アスク上大岡保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

結果の特徴

◇ 調査対象

調査時点での在園児数65名、全保護者52家族を対象とし、回答は36家族からあり、回収率は69%だった。

◇ 調査方法

評価機関で準備した「家族アンケート用紙」と返信用封筒を、保育園から保護者に直接渡し、約2週間後までに密封して匿名で保育園で用意した回収箱に入れてもらい、密封のままの状態の評価機関が回収した。

◇ 総合満足度

施設に対する総合評価は、肯定的な回答は97%(満足36%、どちらかといえば満足61%)と高い評価を得ており、否定的な回答は3%(どちらかといえば不満3%、1名)あった。

◇ 比較的満足度の高い項目

- 1)入園するときの設問で、「子どもの様子や生育歴を聞く対応」、「保育園の1日の過ごし方の説明」については肯定的な回答が、それぞれ96%、92%と高かった。
- 2)日常生活の「遊び」については、6項目全体の設問を合わせると(「満足」「どちらかといえば満足」)の回答が、95%と高い評価を受けている。特に、園での活動や遊びでは100%が肯定的回答となっている。
- 3)「生活」については、7項目の設問全体で肯定的な回答は93%と高く、園における生活は高く評価されている。特に、食事については100%が肯定的回答となっている。
- 4)園と保護者との関係については、7項目全体の設問を合わせると、肯定的回答が86%となっている。
- 5)職員の対応については、5項目全設問合わせると、肯定的回答が91%と高い評価を得ている。

◇ 比較的満足度の低い項目

- 1)園の施設設備については、「どちらかといえば不満」「不満」を合わせた回答が39%あって、満足度は低い。
- 2)園の快適さや安全対策については、「落ち着いて過ごせる雰囲気」及び「外部からの不審者侵入防止」の設問で「どちらかといえば不満」「不満」を合わせた回答がそれぞれ27%および22%になっている。
- 3)園と保護者との連携・交流について、「園の様子や行事に関する情報の提供」の設問に対し、「どちらかといえば不満」「不満」を合わせた回答が22%になっている。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	14%	58%	14%	14%	0%	0%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	58%	42%	0%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	42%	28%	0%	3%	21%	6%
その他: 見学していない。						
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	33%	49%	6%	0%	6%	6%
その他: 見学していないので。						
園の目標や方針についての説明には	25%	60%	6%	0%	3%	6%
その他:						
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	42%	44%	8%	3%	0%	3%
その他:						
保育園での1日の過ごし方についての説明には	33%	52%	3%	0%	6%	6%
その他:						
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	30%	44%	11%	3%	6%	6%
その他:						

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	25%	50%	17%	3%	5%	0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	22%	47%	11%	0%	17%	3%
	その他:					

問4 日常の保育内容について

遊びについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	50%	50%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	58%	34%	8%	0%	0%	0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	39%	55%	6%	0%	0%	0%
	その他:					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	36%	53%	8%	0%	3%	0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	44%	53%	0%	0%	3%	0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	50%	47%	3%	0%	0%	0%
	その他:					

生活について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	64%	31%	0%	0%	5%	0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	64%	36%	0%	0%	0%	0%
	その他:					
基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	47%	39%	3%	0%	8%	3%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	39%	53%	5%	0%	3%	0%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	42%	33%	3%	0%	22%	0%
	その他: まだ、始めていない。おむつが外れてから入園した。					
お子さんの体調への気配りについては	42%	55%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	31%	56%	7%	3%	3%	0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	11%	47%	28%	11%	3%	0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	14%	53%	27%	0%	3%	3%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	31%	44%	19%	3%	3%	0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	42%	47%	8%	3%	0%	0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	31%	56%	13%	0%	0%	0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	31%	44%	16%	6%	3%	0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	28%	53%	11%	8%	0%	0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	19%	64%	11%	3%	3%	0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	22%	58%	11%	3%	6%	0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	25%	61%	8%	0%	6%	0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	53%	44%	0%	3%	0%	0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	39%	58%	0%	3%	0%	0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	47%	50%	3%	0%	0%	0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	39%	47%	6%	0%	8%	0%
	その他: 自分のお子どもはアレルギーでないのわからない。					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	47%	38%	6%	3%	6%	0%
	その他:					
意見や要望への対応については	25%	64%	8%	3%	0%	0%
	その他: まだ意見を言ったことがない。					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	36%	61%	3%	0%	0%

観察方式による利用者本人調査

平成 25 年 7 月 24 日、31 日

施設名：アスク上大岡保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

◇0 歳児

(朝のおやつ)

子どもたちは椅子に、月齢の小さな子はテーブル付きのベビーチェアに座り、朝のおやつを静かに待っている。おやつが目の前に配られると、まず、おやつの歌の合唱となる。月齢の高い大きい子どもはクッキーを掴んで食べている。おやつが終り、職員がボックスからおもちゃを出すと、2～3人がはいはいして近寄って遊び出した。子どもたちは、色々な形のブロックを当てはめるとオルゴールの鳴る玩具や、人形を引っ張ると異なる音程の音の出るおもちゃの遊びに熱心である。職員がだっこしてあやしている子どももいた。

(昼食)

子どもは食事用エプロンを付け、テーブル前の椅子に座り昼食だ。職員からスプーンでの支援を受けながらおいしそうに食事をしていた。

(午睡)

授乳や昼食が終わるとおむつ替えをし、また、ちょっと自由遊びをしている。その間に職員により布団が敷かれた。子どもたちは部屋の中でははいはいしたり歩いたりして、順番に布団へ誘導されていた。眠れない子どもは職員に抱っこされて眠りにつく。抱っこされながらおとなしくパッチリ目をあけている子どももいた。照明が消され、カーテンを閉めてうす暗くなった部屋で、近くで職員が見守る中で、仰向けで手を伸ばして大の字の姿勢で安心して静かに眠っていた。

(午睡あとの様子)

オムツを交換された後、職員による読み聞かせの時間になると、椅子に座っておとなしく、職員の絵本の絵を見せながらの読み聞かせに聞き入っている。静かに座っていない子どももいて、テーブル伝いに伝え歩きをしていたり、座布団に寝転びながら哺乳瓶を抱え、ミルクを飲んでいる子もいる。

◇1 歳児

(午前のプログラム)

子どもたちはフロアーいっぱい広げた大きなウレタンブロックの上に、乗ったり下りたり、座ったりして、運動を兼ねた遊びに夢中になっていた。部屋の天井に子どもたちが描いたうちわを飾り、涼しそうな雰囲気づくりをしている。

(お散歩)

玄関を出たフェンスの内側で点呼となる。呼ばれると各自「ハイ」と手を挙げて答える。10人は徒歩で、一人はおんぶで出掛ける。道端の雑草に手を触れて楽しそう。職員は絶えず子どもたちに話しかけ、子どもたちも一生懸命答えていた。職員は途上の道路の危ない所を教えたり、蝉の声などを真似て子どもの関心を高めていた。公園ではまず、職員が安全を確認し、子どもたちは一斉に高さ2m、長さ6m、直径1.5mのチューブ滑り台に殺到する。先生に安全確保されながら、階段を這い上り、滑り台を楽しんでいた。近所の親子連れも滑り台待ちの流れに参加し、地域交流も和気あいの雰囲気で行われていた。帰りには、子どもと職員が一緒になって近所の親子連れに、「有難うございました。」とご挨拶をし、親子からも「また遊ぼうね。」と返事があった。

(昼食)

昼食の時間になると、職員が並べたテーブル及び椅子に向かい合って座り、スプーンで自分で食べる子どもや、職員の支援を受けて食べる子どももいる。ほとんどの子どもが食事を終わってお茶を飲んでいても、食の遅い子が何人か未だ食べていた。やっと全員の食事が終わると職員の合図でみんなが「ごちそうさま」とあいさつをする。職員がテーブルを片付け、薄めた消毒液で床を拭き、午睡の布団を出し始める。

(午睡)

職員がなかなか寝付かない子どものそばで胸のあたりをトントンと軽くたたいて寝付かせていた。部屋には「睡眠記録午睡表」があり、職員はうつ伏せで寝ている子どもを、仰向けになおしたり、約10分毎にそっと身体に触って、寝息、脈や鼓動を確認し記録している。

◇2歳児

(2～5歳児合同朝の会)

運動会の練習のため3～5歳児室の仕切り収納棚を隅に移動して広いフロアとする。2～5歳の子どもが年齢毎に全員整列して、合同で朝のご挨拶をしていた。

朝の歌「今日も元気に遊びましょう」を全員で唄う。「先生、おはよう。みなさん、おはよう。」とみんなで合唱して、2歳児だけは自分たちの部屋へ行く。

2歳児クラスは職員が子どもの名前を呼び出欠席をとる。「〇〇さん」「ハイ」と元気な声で返事をしていた。

(朝のおやつ)

皆テーブルにつき、おやつの歌で「いただきまーす。」「召し上がれ。」で麦茶を飲み、おやつのクッキーを食べ始める。アレルギーの子どもは、床に黄色の線を引き、ほかの子どもと混入しないように留意していた。

◇3 歳児

(午前の様子)

2、3 歳合同でアスレチック遊びをする。ウレタンブロックやマット、テーブルの板を組み合わせて、部屋の中にアスレチックフィールドを出現させる。大きなテーブルも滑り台に変身する。2、3 歳児と一緒に登り下りする。すべり台とクッションを用いた、一人ずつ登って下りる遊びは楽しそうだ。怖がる子どもには、職員が手を携えて安全面に気を付けながら補助している。

(昼食・午睡)

昼食時になると、職員がテーブルを取り出し並べる。子どもたちは各自、椅子をテーブルへ運び、給食当番はエプロン・帽子を付けて、トレーをテーブルへ運び、おはしを準備する。

食事後は各自自分の食器を片付けていた。食事が終了すると、自分で歯磨きをしている。職員が仕上げ歯磨きをし、ぶくぶくをして口をゆすいでいる。子どもたちは排泄をすませってから、パジャマに着替えている。布団を敷き、全員着替えが終わった時点で、職員が紙芝居を見せてから午睡に入っていた。

(クッキング保育)

全員髪の毛をバンダナで包み清潔を確保する。なべに牛乳、小麦粉、粉ミルク、砂糖を入れ、クッキングヒーターで温めながらみんなで順番にかきまぜる。だんだん粘りが出てきたところでバニラエッセンスをこれも順番に一振りずつ加えると、クリームパンのカスタードが出来上がった。そばに用意されていた食パンにはさみこむと、子どもお手製のクリームパンが出来上がった。午後のおやつに出され、みんなでおいしそうに食べていた。

(午後の遊び)

ワミー(プラスチック製)をつなげてボールやしゅりけんなどの形を自由に上手に作って見せてくれた。(職員が指先の運動に効果的と説明してくれた。)夏祭りに向けて、おみこしがきれいに飾り付けられ、ほとんど仕上がっている。子どもたちが、かつげるのを楽しみにしている様子うかがえた。

◇4～5 歳児

(英語教室)

種々の海の生物の形に切りだされた厚紙には磁石が貼りつけてあり、小さな竿の先に糸でつりさげられたもう一方の磁石があり、子どもたちは順番に厚紙の紙型を釣り上げ、タコはオクトパスだの、クラゲはジェルフィッシュだの英語名を言っている。次に1～20までの数の歌やABCの歌を全員で合唱していた。

(合同組体操練習)

3 歳児も加わり、運動会の組体操を練習する。1 人演技や2 人演技、3 人演技と最後は5 人組の組体操まで職員の号令で一生懸命練習し、ずいぶん巧く出来るようになっていた。

(昼食)

職員の電子オルガンに合わせて給食の歌「給食、給食うれしいな…」を唄う。

各クラス 2 名ずつの当番が前に出て、「準備はよいですか?」「いいです」、「ごはんはありますか」「あります」、「スープはありますか」「あります」、「おはしはありますか」「あります」、最後に「それではみなさんいただきます」と一緒に食事を始めた。

職員からの食事終了予定時間が壁の時計の針の位置により示され、みんな思い思いの食べ方で食事を楽しんでいる。終わった子どもは食器と椅子を自分で片付け、自発的に歯磨きをしていた。何人かの子どもは床に落ちたごみなどを拾い集め、ゴミ箱へ片付けていた。

◇ 5 歳児

(朝のプログラム)

職員の用意したテーブルに当番の子どもが鉛筆、丸い色紙を配って歩き、みんな椅子に座りひまわりの製作の用意ができた。まず画用紙に、クレヨンを使って顔の絵を一生懸命描き、各自の名前を仮名で書き入れていた。みんな字を覚えている。次にひまわりの輪郭に花びらの画用紙を貼りつけ、ひまわりの花の部分が完成した。

平成 25 年度 横浜市第三者評価 事業者コメント
(アスク上大岡保育園)

【受審の動機】

アスク上大岡保育園は、開園 8 年目を迎えました。今までの園運営を振り返り、今後の課題を見出すために有効な手段だと考え、毎年第三者評価を受審させて頂いております。開園初年度より、同じ評価機関に評価を依頼し一貫した調査を受けることで比較がしやすく、運営方針等も十分にご理解いただいた上で調査を実施していただけると感じています。今年度も、保護者のニーズを把握する絶好の機会、また、同時に職員が自己・自園を見直す良いきっかけになると考え、受審いたしました。

【受審した結果】

今年度は園長になり 2 度目の受審ということもあり、昨年度の振り返りをしつつ、昨年度にご指摘いただいた箇所を見直し、さらに工夫をしながら保育にあたってまいりましたが、第三者評価を受審する事で、見えない部分や見逃している部分に気づく事ができました。今後も、さらにより良い保育をする為に保護者の皆様からいただいた意見とご指摘いただいた箇所を見直し、保育に役立てていきたいと考えています。

最後に今回の受審にあたって、ご利用者調査にご協力いただいた在園児の保護者の皆様、ご尽力頂いた評価機関の皆様に心より感謝申し上げます。

アスク上大岡保育園
園長 村瀬 愛佳